



# 中国国際学会報告書

~The IEEE 11<sup>th</sup> International Conference

on ASIC (ASICON 2015)~

平成 27 年 11 月 15 日  
群馬大学大学院 理工学府 理工学専攻  
電子情報・数理教育プログラム領域  
小林研究室 博士課程前期 1 年  
荒船拓也



小林・高井研究室集合写真

## 1. 参加した学会情報

### 【名称】

The 11<sup>th</sup> International Conference on ASIC

### 【開催場所】

Wangjiang Hotel, Chengdu, China (中国 四川省 成都 望江宾馆)

### 【開催期間】

2015 / 11 / 3 (Tue) ~ 2015 / 11 / 6 (Fri)

### 【発表論文】

#### ① “Fibonacci Sequence Weighted SAR ADC Algorithm and its DAC Topology“

**Takuya Arafune**, Yutaro Kobayashi, Shohei Shibuya, Haruo Kobayashi

(主著, 2015 / 11 / 6 に発表)

#### ② “Selectable Notch Frequency of EMI Spread Spectrum using Pulse Modulation in Switching Converter”

**Yasunori Kobori**, **Takuya Arafune**, Nobukazu Tsukiji, Nobukazu Takai, Haruo Kobayashi

(第2共著, 2015 / 11 / 6 に発表)

### 【学会内容】

2年に一度の頻度で開催されるIEEE主催の国際会議である。本学会の論文採択件数は126件(採択率31.0%)でポスター採択件数は147件(採択率33.6%)でした(全投稿件数:426件)。学会の扱う分野は広く、多岐にわたっていると感じた。

学会プログラムの中にはKeynote SessionというSessionがあり、先生方からの最先端技術の講演を聞く機会があった。講演では近年注目を集めているIoT(Internet of Things)に関連する内容が多かった。クラウドやビッグデータ等の言葉は最近よく耳にするようになったが今後もIoTはますます注目を浴びていくと感じた。

ポスターセッションは全採択件数の147件を、2日に分かれて行われた。しかし、会場があまり広くなく、70件ほどのポスターをするには少し狭いと感じた。私は研究テーマ(ADC)に関連するポスターを見てまわった。近年注目を浴



本学会の Opening 会場の様子



Poster Session 会場の様子

びている SAR ADC のポスターが多く、やはり世界的に見ても SAR ADC の研究は盛んであると改めて実感した。

## 2. 旅程

- 1日(日): 前泊 (東京ディズニーシーで前日祭)
- 2日(月): 出国 (羽田空港 ⇒ 北京国際空港 ⇒ 成都空港)
- 3日(火): 成都観光 (パンダとご対面、武侯祠)
- 4日(水): 学会参加&
- 5日(木): 学会参加
- 6日(金): 学会参加 (発表日)& Banquet
- 7日(土): 帰国 (成都空港 ⇒ 成田空港)

## 3. 報告

### 【学会参加により得られたこと】

今回初めての国際学会での発表であったが思っていたよりも緊張しなかった。時間配分に十分に気をつけ、積極的にレーザーポインタを使った発表ができたと思う。これも小林研究室で鍛え上げられた発表能力のおかげだと思う。今回の発表を見ていて、質疑応答では質問する人が少なく座長さんが質問することが多かった。時には時間の関係上質問がなければ座長さんも質問しないといった発表がいくつも見られた。そんな中、自分の発表では聴衆の方から質問をいただき、聞いてる人が理解し、興味を持つような発表ができたようだ。今回の発表は英語での発表だったため、口頭で伝えるよりも図で見せるスライドを心がけたのが良かったのかもしれない。ただ、質問の内容が聞き取れず質問にうまく対応できなかったのがとても後悔です。あと、黄金比パンダのスライドも...

今回は採択率が非常に低い中で論文が採択されたことは国際的に認められたと感じました。その中で分かりやすく興味を持ってもらえる発表ができたことは今後の自信に繋がるはずだ。



望江宾馆(日本語で川の見えるホテル)  
5星の高級ホテル



望江宾馆の部屋からの景色  
木ばかりで川が全然見えない!!

### 発表画像

後に動画から引っ張ってきます。

## 【中国滞在で得られたこと】

### ① 語学学習とそれに対する意欲

国際学会の中では英語で話しかけられることが多々あったが話している内容がうまく聞き取れないことが多く、自分のリスニング能力に失望した。また、言いたい単語が出でこないときはジェスチャや単語だけを並べることが有効であることを実感した。しかし、学会会場を出ると途端に英語が通じなくなる。そこで中国語をわずかだが学びました。簡単な文章とはいえ現地の人に通じたときはとても感動した。しかし、返答の言葉が全く理解できなかつたのが悔しい！今後は少しずつ中国語を勉強して会話ができるレベルの能力をつけたい。

### ② 社会インフラ

中国の滞在中で最も驚いたことが中国のトイレはトイレットペーパーが流せないことだ。たとえ日本のものを持参しても詰まる可能性はあるそうだ（知恵袋参照）。そもそも中国のトイレは汚物以外を流すように設計されていないため、汚物以外のトイレットペーパーを流すとすぐに詰まってしまう。実際に自分たちのホテルのトイレを詰まらせてしまい、身をもって体験できた。このような排水処理も日本とは異なり、あまり発展していないと感じた。トイレットペーパーが流せない国は中国だけではなく、韓国やトルコ等も同様である。トイレットペーパーが流せる常識は世界的に見ると通じない。日本では当たり前であることが世界では通じないことも実感することができた。

もう1つ車の数（特バイク・自転車）がとても多いと感じた。この交通量のためクラクションは常に飛び交う、しかも運転は日本に比べるとかなり荒い。1週

間の滞在にも関わらず事故に遭う寸前の場面が多々あった。車での移動中に事故現場も何度も目撃した。また、歩行者は青信号で渡っているにも関わらず轢かれそうになる。それもそのはず中国では、赤信号でも右折ができるのである（中国は右車線）。中国は確かに交通量が多く（右図参照）、それを少しでも緩和するのが目的なのだろう。しかし、この交通ルールはリスクがかなり高いと思う。このような中国の交通インフラは交通ルールを始め、ドライバーの安全運転への意識・別の交通機関（電車等）の発展等改善していく点がたくさんあると感じた。



人口が多いためか交通量が日本の3倍以上  
特にバイクや自転車が多い

## 4. 中国の豆知識

- ① トイレットペーパーはトイレに直接流してはいけない。隣のゴミ箱に捨てる。



- ② 中国では冷水(0度)の水を飲まない。冷たくてもぬるま湯程度。空港では下のように冷水が存在するが一般の店で冷水を注文するとぬるま湯が出てくる。



冷水はまさかのここ↑

- ③ 川劇 (セングキ) は四川省伝統の劇である。顔が一瞬で変わる技術は国家レベルの極秘技術である。



川劇 (中国四川省伝統劇)

- ④ 中国語は発音次第で全く異なった意味の言葉になる。中国語でパンダはシオンマオと呼ぶがアクセントを少し変えると胸毛になる。



パンダがたくさん!!

- ⑤ 日本でよく食べられる中華料理 (回鍋肉や麻婆豆腐、青椒肉絲等) は四川省の郷土料理である。



初めての四川料理!!  
山椒と唐辛子が利いてる!!

## 5. 感想

初めての海外は不安であったが終わってみると楽しい思い出がたくさんできた。海外での文化の違いや伝統芸、現地での生活等日本では得られない貴重な経験ができた1週間であった。その反面、言語の壁が大きく自分の言語能力の低さを痛感した1週間でもあった。今回の1週間で得られた感性や経験を基に更なる発展に勤めたい。

## 6. オフショット



## 7. 最後に

出発当初は1週間の滞在は長いと思っていましたが、いざ滞在してみるとあっという間でした。そんな短い期間にも関わらず日本では見れないこと、感じられないこと等得られたことが多く密度の濃い1週間でした。このような貴重な機会を与えてくださった小林先生・小堀先生・高井先生・青木先生・伊先生、旅のサポートをしてくださった林先生・石川技官、小林・高井研究室の皆さま、そして金銭的な支援をしてくださった公益財団法人 中谷医工計測技術振興財団殿に深く感謝申し上げます。



真谢谢你了